

株主・投資家の皆様から寄せられる、 当社事業や事業環境に関するご質問に、お答えします。

Q アルミニウム板の製造プロセスは？

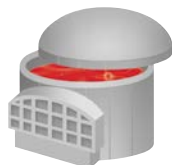
A まず、アルミニウムの地金^{じがね}を溶かし(溶解)、不純物を取り除き、大きな直方体のアルミニウムの塊(スラブ)をつくります。例えば福井製造所のスラブは、最大で幅2.3m、長さ10m、重さ32トンにも及びます。表面を削り、スラブの芯の部分まで均等に熱が行き渡るように均熱処理を行い、スラブは最高600℃に熱せられ、熱間圧延ラインに運ばれます。熱間圧延機でスラブを延ばし、3mm程度

に薄くなった板はコイル状に巻き取られていきます(熱間圧延)。その後、冷間圧延機で、板の厚さや平坦度などをコントロールしながら、圧延を行い(冷間圧延)、用途に応じて強度が調整されます。最終的に、缶などの製品に応じて仕上処理(表面処理・塗装など)がなされ、お客様に納品されます。

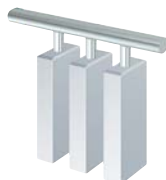
アルミニウムの加工プロセス



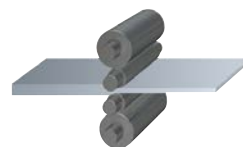
溶解



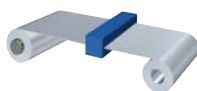
casting



熱間粗圧延



仕上、検査・梱包



冷間圧延



熱間仕上圧延



Q 国内外のアルミニウム業界におけるUACJのポジションは？

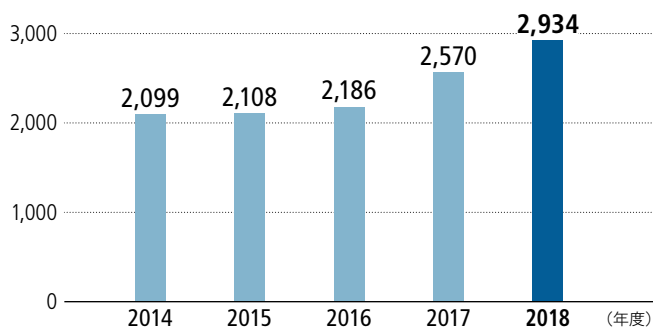
A 2018年度の全世界への販売量は109.4万トンに達しており、国内ではNo.1のポジションを維持しています。また、世界ではNovelis社、Arconic社など、海外のアルミニウムメジャー企業に続く規模を誇っています。

Q 海外市場向けの売上高比率、販売数量は？

A UACJは、グローバル供給体制の強化を目標に掲げてきました。施策を着実に進めたことで、海外売上比率は、2014年度の36.7%から2018年度は44.4%となり、海外市場向け販売数量は年々増加しています。

海外売上高の推移

単位:億円



Q 自動車軽量化のカギとなるアルミニウムは、どの部材に使われていますか？

A アルミニウムは鉄の3分の1の比重である軽量性をはじめ、強度や加工性、耐食性、熱伝導性、リサイクル性などに優れた素材として、これまでもエンジンやトランスミッション、ホイールといった重要部品に採用されてきました。近年では、2020年以降に各国で実施される燃費基準の厳格化を見据え、パネルやフレームなど

Q 有利子負債が多いようですが、財務の健全性はいかがですか？

A 当社グループでは、中期経営計画の成長戦略に基づき、今後の成長を見据えた先行投資を積極的に行っています。このため、現在は借入が増加している状況ですが、今後は投資回収期に入っていくものとみています。今後も財務の健全性と投資のバランスを重視しながらグループ経営を進めていきます。

Q 地金価格の変動は業績に影響がありますか？

A 当社グループの主要原料であるアルミニウムや銅の地金価格は相場によって変動します。製品の販売価格は基本的に「地金価格+加工賃(ロールマージン)」となるため、地金価格と連動して変動しますが、当社グループでは、お客様とあらかじめ決めたルールに従い、相場が変動した場合でも価格に概ね転嫁させていただいています。このため、業績面では大きな影響を受けません。

※地金価格の推移は、P.47のグラフをご参照ください。

Q 利益面の説明にある「棚卸評価関係」とは何ですか？

A 当社グループの売値のベースとなる地金価格と、実際の地金購入額との違い、および当社の購入した価格と、在庫の払出し総平均価格との差から生じる評価損益です。地金が高い時に購入し、その後、地金価格が下落傾向にあれば、棚卸評価関係はマイナスとなります。逆に、地金が安い時に購入し、その後、地金価格が上昇基調になると、棚卸評価関係はプラスとなります。

への用途拡大が進んでいます。UACJは、2018年度からスタートした中期経営計画の重点施策としてグループ横断で多様な自動車用アルミニウム部材を供給していくことを掲げ、自動車軽量化のソリューション・プロバイダーとしての貢献を目指しています。

鋳鍛事業

ホイールやターボチャージャー・コンプレッサホイールなど

コンプレッサ
ホイール

フード

板事業

ドア、ボンネットやルーフなどの外皮製品、熱交換器材など

熱交換器材

加工品事業

バンパーやバスバーなど

バンパー

銅管事業

自動車電装用モーター電機子(コンミテータ)

コンミテータ

箔事業

リチウムイオン電池の正極・負極材(アルミニウム箔、銅箔)

リチウムイオン
電池用箔

押出事業

サブフレームなどの構造材や熱交換器材など

サブフレーム